

Bi-monthly

FRUIT &

No.31

TEA TIMES



巻頭言 「コロナ禍(下)でお茶を考える」

特集記事 消費者もにっこり笑顔になる
緑茶用新品種「かなえまる」

カチャカチャTIPS

煎茶はどのように
して生まれたか？

コロナ禍（下）でお茶を考える

茶業研究領域長

根角 厚司

新型コロナ（COVID19）が世界中

で蔓延して2年が過ぎました。この禍の影響を受けなかった人は一人もおらず、今なおその状況から抜け出せたわけではありません。このような状況が続いたことにより、仕事のあり方や物事の考え方に対する価値観は否応なく変化しました。テレワークやリモート会議は当たり前になり、家で過ごす時間が増えたことから、いわゆる「**巣ごもり需要**」が生まれました。経団連の調査（2021年）によると、様々な産業分野において、ライフスタイルの変化に合わせた商品開発が求められているそうです。

嗜 好品である茶に対するニーズは、

昔から社会情勢やライフスタイルの変化に大きな影響を受けてきました。昭和の高度経済成長の時代には趣味や嗜みとして煎茶や抹茶、その後ペットボトルの普及やウーロン茶ブーム、平成の後半には緑茶飲料の消費がリーフ茶を超え、今や急須を持つ家庭の方が少なくなってきました。では、いま、コロナ下でどのようなお茶が求められているのでしょうか。「**巣ごもり需要**」でコーヒー豆の需要が伸びたという話を聞きますが、茶においても、急須で淹れなくてはならない高級茶の需要が伸びているようです。いずれも美

味しく飲むためには茶器などの専用の道具が必要で、手間と時間が必要です。

私 自身も、自宅で時間をかけて

茶を淹れる回数が増えました。毎回美味しく淹れるわけではありませんが、淹れる時間、温度、茶葉の量を変えてみて「美味しい！」と感じたときは、なんとも言えない幸せな気分になります。高級なお茶ほど淹れるのが難しいと言われますが、「**巣ごもり需要**」で高級茶の需要が増えたとい

うのは、こういう時間も含めて、

費用対効果、満足度が高いと言

うことだと思えます。例えば、

3000円／100gの日本茶は高いと

思う人が多いと思いますが、1杯

100円で約30回もわくわく感と、

ゆったりとした贅沢な時間を楽

しむことができると思えば費

用対効果は低くはありません。

お茶

はおよそ千年の昔から『養生

の仙薬』と言われ、コロナ下で茶の

機能性に期待する声もあります。

農研機構でも、茶葉内に含まれ

る機能性・栄養成分を多く含ん

だ品種開発や、その利用技術に

関する研究を行っています。た

だ健康に良い、美味しいと言っ

けでなく、そこに『楽しい！』が加

わることで、お茶の価値は何倍に

もなります。コロナ禍で在宅時間

が増えた皆さん、ちょっとだけ贅

沢をして自分好みのお茶を探し
てみませんか。

ねすみ あつし

茶業研究領域長

1987年に農林水産省入省以来、枕

崎茶業研究拠点と金谷茶業研究拠

点でお茶の品種改良一筋に研究をさ

せていただきました。この4月に枕崎

から17年ぶりに金谷茶業研究拠点に

帰ってきました。応援するジユビロ磐

田の試合が生で観戦できるので、週

末のホームゲームを楽しみにしてい

ます。もちろん今は暖かいお茶、夏

は冷たいお茶を飲みながら応援しま

す。

著者のポートレートは**本誌8号**

にあります。



生産者も消費者もにっこり笑顔になる 緑茶用新品種「かなえまる」

日 本で栽培されている茶のおよそ70%が「やぶきた」という品種です。20世紀の初頭に生まれた「やぶきた」は全国的に栽培可能で品質も良好ですが、病害虫の発生が多く、安定的に生産するためには農薬の散布が必要不可欠です。そこで農研機構では、「やぶきた」に変わる品種として、病害虫に強く、少ない農薬でも安定生産が可能な新品種「かなえまる」を育成しました(写真1)

新品種「かなえまる」とは？

「かなえまる」は2022年3月15日に品種登録されたばかりの新しい品種です(写真2)。1994年に金F183(ゆたかみどり×さやまか

おり)と金谷13号(AE3×かなやみどり)を交配した実生群から選抜され、静岡県と鹿児島県にある農研機構の研究拠点に加えて、茶産地10県の公設試験研究機関での試験と何段階もの選



写真1「かなえまる」の一番茶園相

茶業研究領域
茶品種育成・生産グループ

大井 彩子



写真2「かなえまる」の一番茶新芽

抜過程を経て、品種となりました。

病害に強い「かなえまる」

「かなえまる」の一番の特徴は病害虫に強いという点です。



写真 3 クワシロカイガラムシが多発した「やぶきた」の幹、白く見える部分に多く寄生している

茶樹にとって厄介な害虫の一つであるクワシロカイガラムシ（写真3）は幼虫とメスの成虫が樹液を吸い、多発すると茶樹の生育が抑制され、枯れる場合もあります。また発生部位が幹や枝であるため、農薬が届きにくく、防除には10a当たり

1,000Lの農薬散布が必要です。

そこで、このクワシロカイガラムシが寄生しにくい品種が求められ、「かなえまる」が生まれたのです。さらに、「かなえまる」は茶の主要な病害である炭疽病や輪班病、もち病の発生が非常に少なく、殺菌剤散布も減らすことができ、生産者の方々にとっては、栽培にかかる労力やコストの削減にもつながります。

中手品種の「かなえまる」

「かなえまる」のもう一つの特徴は、「やぶきた」の様な中生品種という点です。植物には、開花や収穫までの期間を基準とした早晩性という性質があり、大きく早生、中生、晩生に分けられます。では、中生品種にはどんなメリットがあるのでしょうか？

一般的にお茶は収穫が早い方が高く取引されます。しかし、早生品種は一番茶の芽の生育開始が早いため、霜にあたる危険性が高く、特に気温の低い茶産地や山間地には不向きです。地域によって時期が異なりますが3〜4月に生育収穫する一番茶はお茶で最も収益性が高く、この芽が霜にあたってしまると、価格が大きく下がったり、酷い場合だと収穫できなくなったりしてしまいます。また晩生品種は、霜にあたる危険は小さいのですが、収穫が遅いため価格が低くなりやすいです。そのため、霜にあたりにくく、より価格低下の少ない中生品種は全国どこでも安定的に生産することができま



露地栽培でも高品質

お茶の品質を上げる栽培方法の1つに被覆栽培があります。被覆栽培とはお茶の樹に覆いをかけて栽培する方法で、これにより葉の緑色が濃くなり、渋味が少なく旨味の多いお茶を作ることができます。「かなえまる」は露地栽培（被覆をしない栽培方法）でも色が良く、アミノ酸が多い美味しいお茶を作ることができます（写真4、表1）。



写真4 「やぶきた」（左）と「かなえまる」（右）の比較「かなえまる」は「やぶきた」より色が濃く茎（白っぽく見える部分）が少ない。

表1 「かなえまる」の一番茶収量・品質

試験地	品種	一番茶 萌芽期	一番茶 摘採日	生葉収量 (kg/10a)	製茶品質		
					外観	内質	合計
金谷	かなえまる	4/1	4/30	296	15.8	21.1	36.9
	やぶきた	3/30	5/2	291	12.5	21.4	33.9
枕崎	かなえまる	3/24	4/14	380	12.7	19.6	32.3
	やぶきた	3/23	4/17	282	10.9	19.7	30.6

製茶品質は外観（形状、色沢）および内質（香気、水色、滋味）の5項目10点、合計50点満点で審査した。

さらに被覆栽培にも適しており、長い期間覆いをかけて栽培するかぶせ茶や玉露においても収量が多く、高品質なお茶を生産することができます（表2）。

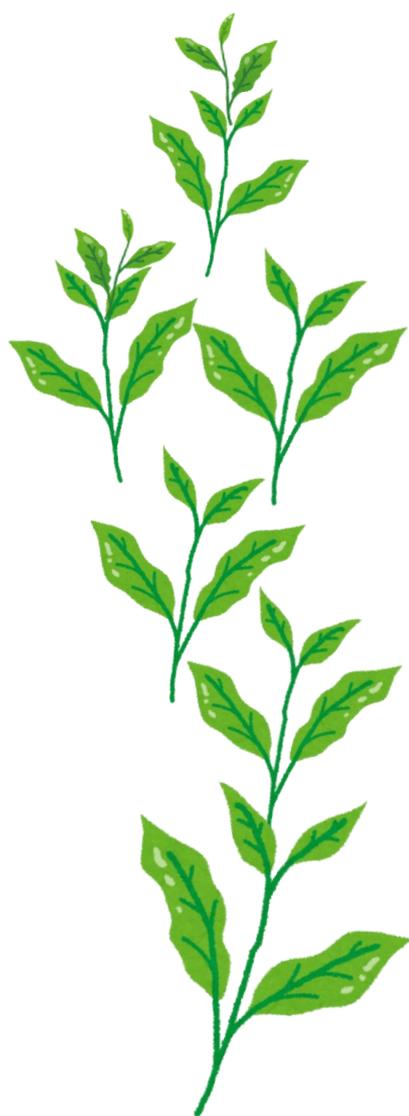
表2 「かなえまる」のかぶせ茶の一番茶の品質と収量

品種	生葉収量 (kg/10a)	製茶品質		
		外観	内質	合計
かなえまる	420	18.0	27.5	45.5
やぶきた	260	16.7	26.3	43.0

三重県農業試験場（2013～2015年の平均値）にて85%遮光素材で14日被覆して製茶した。製茶品質は外観（形状、色沢）および内質（香気、水色、滋味）の5項目10点、合計50点満点で審査した。

今回紹介した「かなえまる」は新しい品種なので、消費者の皆様の方に届くまでにはまだ時間がかかりますが、例えば「せいめい」、「さえあかり」など農研機構には他にも特徴的な品種がたくさんあります（本誌20号「進化する茶の品種」参照）。

ぜひ品種にも注目して緑茶を楽しんでみて下さい！



おいしい あやこ

茶業研究領域
茶品種育成・生産グループ



新しく育成された茶品種の栽培や、茶の品質や生産性を高めるための栽培方法に関する研究に取り組んでいます。大学では食品素材（私はコーヒー粕）における酵素利用についての研究をしており、栽培分野には全く馴染みがありませんでした。栽培分野を担当し始めてから7年ほどたち、ようやく独り立ちできたかなと感じています。4歳の息子に振り回されながらも、生産者、消費者どちらも嬉しくなるようなお茶作りに貢献できると日々精進しています。

ておらず、苦味や渋味が必要以上に出していないことを示します。経験則からこれだけのことを得ている先人の知恵には驚きを隠せません。さらに工夫と嗜好性の向上を目指して新しいお茶たちが生まれますが、それはまた別のお話。



編集後記

その時、私は一人で山を登っていた、初夏の森の中、心地よく汗をかき少し息を弾ませて、稜線を目指していた。無心で歩を進めていると、感覚が研ぎ澄まされ、鳥の声や、風の音などが妙にくっきりと聞こえていた。ふと、気配を感じて頭を回すと、木々の間にこちらを見ている目があった。その動物はじっと佇んでいて、私も動きを止めた。

私の頭の中では、「犬? いや、もっと大きい、熊? いや、毛の色が茶色、猪? いや、頭の形が違う、鹿? いや、もっとずんぐりしている・・・」知っている動物なのか、安全なのか、を高速で検索していた。見つめ合った時間は数秒か、数分のことなのか、覚えていないが、その動物はゆっくりと視線を外して、

森の中に姿を消した。

さて、私のこの体験は後日目にしたヨシタケシンスケの絵本「りんごかもしれない」と似ているなと思った。「りんごかもしれない」は、帰宅したときに食卓に置かれたリンゴを見て、怒濤の妄想をユーモアたっぷり描いてみせる絵本だ。私の場合、森の中で一人きり、身の危険を感じて頭がフル回転した。その経験から見たり感じたりしたものを用いた視点で見つめ直すことは、研究に限らず、生活の上でとても必要なと思うようになった。さて、森の中の動物だが、動物が去った後で気がついた。初めて見た夏毛のカモシカだった。

アダムU2

CENTENNIAL GALLERY



茨城県つくば市 果樹茶研究部門 図書室に
眠っていた果物図 年代不詳（リンゴ「玉霰」）

Fruit & Tea Times

2016年 11月 1日 創刊
2022年 5月 1日 31号刊行

刊行/国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
果樹茶業研究部門

企画・編集/研究推進部研究推進室 TEL 029-838-6447

住所/ 〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1

URL: <http://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/>

